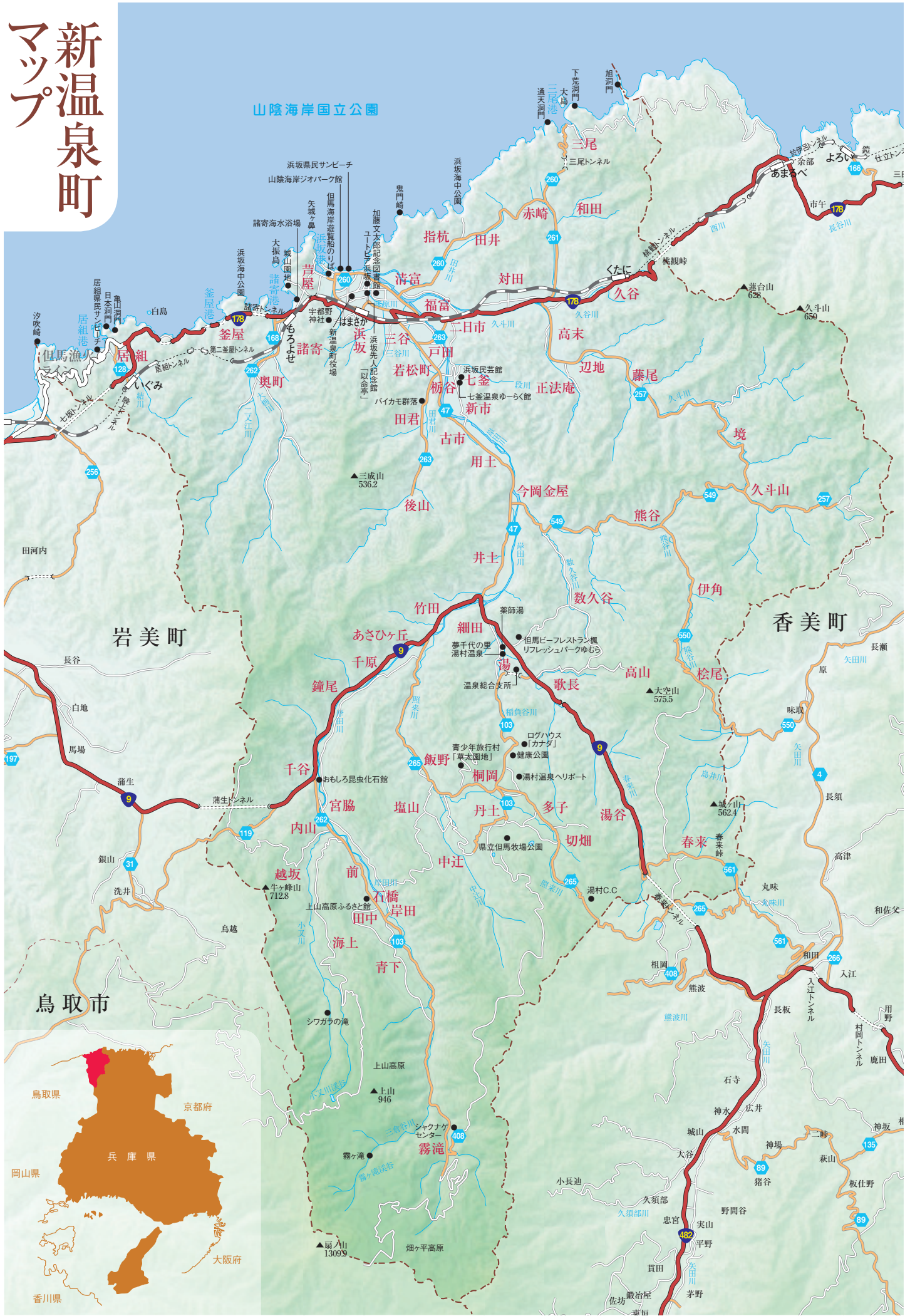


新温泉町マップ



議会 Assembly



町政に関する議決機関である新温泉町議会は、町民の代表である16人の議員によって構成されています。議会には定例会と臨時会があり、定例会は年に4回（3、6、9、12月）、臨時会は必要に応じて開かれています。また、総務教育、

産業建設、環境福祉の3つの常任委員会と議会運営委員会・議会広報調査特別委員会を設置しています。議会の会議は一般に公開されており、議員の活動や施策方針などを実際に見聞することができます。

前田純孝が詠んだ山陰海岸

与謝野鉄幹に「東の啄木、西の翠溪（純孝）」と言わしめた歌人前田純孝は、明治13年（1880）本町諸寄に生まれました。生前に遺した二千首にも及ぶ歌の中に次の歌があります。

「かへり見て波の但馬の山々か径か岬かあけほの空」

この歌は、病癒えて大阪に戻る明治39年10月13日、諸寄から海路舞鶴を通じて帰る船上の作と言われていますが、山陰の海岸を穏やかに詠んでいます。

この山陰海岸は、昨年（2009年10月）、世界ジオパーク国内候補地に決定しました。

約100年前に、純孝が小さな船の上から見た山陰海岸は、私たちが見る海岸の風景と同じだろうか、少し変わったのかと想像すると、わくわくした楽しい気持ちになります。



新温泉町長
岡本英樹

山陰海岸は、かつてユーラシア大陸と地続きであった大地が悠久の時間をかけて日本海を産み出した壮大な地質や地形の海岸で、足元に転がる石には、地球の誕生からその未来までを語るような壮大な物語が秘められていることを教えてください。

今を生きる私たちがまちづくりにかかる時間は、この長い長い悠久の時間からすると、ほんのわずかですが、先人たちが営々と築いてきたこのまちをさらに発展させ、子々孫々に受け継いでいって、未来への責任を果たすことが今を生きる私たちに課せられた使命だと思っています。

表紙の文字「創」は、これも本町出身で、現代書芸の先覚者である書道家宇野雪村先生の書です。

住民の皆さまと行政の協働により、周辺や関連する自治体とも手を携え、誇れるまちを「創」って行きましょう。